
終わる世界に最後の約束を

youmu7

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

終わる世界に最後の約束を

【Nコード】

N8974Z

【作者名】

youmu7

【あらすじ】

主人公 藤堂 亜紀（男）通称…俺だが、

ある日、同じクラス？の神崎から刀をもらう

厳密には返してもらった……かな？

その刀は俺の家の宝刀で……。え？俺こんな生活望んでないんだが？

その日から仲間が増えるわよくわからん理由で切られそうになるわ！俺の日常はもう戻ってこないんだ……そう、永遠に

序章く終わりの時の猶予時間く（前書き）

この小説は、初めて書いたので矛盾があると思いますw w
あと、けっこう定番ネタですよねく。

暇なときなどにどうぞ!! ちなみに結構長かったりするのかな？
でも大丈夫！毎回10話くらいで大体の話がわかる様にまとめるか
ら!!

あれ?・・・見る必要なくねw w そんなことは気にせず!
ゆっくり楽しんでいてね!!

序章〈終わりの時の猶予時間〉

「俺の家には宝刀がある」って言えば何人が信じるだろう。だってそれは只の模造刀かもしれないのだ。

普通の人にはそんなの見分けがつかないだろうが、最初に言っただけ通り

「俺の家には宝刀がある」

だが、この宝刀を巡って大きな戦争になるとは普通だれも考えない。

只の不幸だと、時期が重なっただけだと思いたかった。だが確実に俺だけを狙ってくる集団。

あげくに、味方さえ裏切るものが出る

どうしてこんなことになったのか・・・。

それを今から説明していこう

序章く終わりの時の猶予時間く（後書き）

序章・・・なんかな？プロローグの方がいいかな？どっちでもいいかw

うん、これだけだとわけわからんね!!

でも見ていけばきっと・・・!!

あらずじ、序章は多少の変更あるかもです!!

第1話く終わりのはじまり?く(前書き)

サブタイ定番過ぎー!!
W
W

第1話〈終わりののはじまり?〉

自宅―自室

朝一それだけで辛い、だって朝だぜ? 眠いじゃん

「あきーそろそろ起きなさい」

とまあこんな感じにいつも通りなわけだが

しかし……。母さんも疲れないのかな? 毎日同じ事して

小さいころはうるさいだけだったけど今では声を聞いているだけで落ち着く

そんなこんなで俺は布団からゆっくりと起き時計に目をやる

「7:00か……。しかし今日の気温3℃でww馬鹿にしてるだろ」
そう特に朝が辛いのはこの為である。みんなもわかるだろ?

こんな寒い中なんで自転車で10分かかる学校へ行かなきゃならないんだ。

しかしまあ近いんだよなあ、それだけでも良しとするか!

7:10 着替え終了! いやあ着替えるまでってなかなか時間かかるよね?

寒い日に服を脱ぐとか……。ちくしょー!! 着替えたて寒いよーー!!

こんなやりとりを続けて5分無駄にした。

7:15 食卓にて ニュースによれば今日は快晴らしい
ってみればわかるよwwで今日は一日晴れ

「晴れでよかったねえ」母さんが笑顔で言う

「まあ寒いからな、晴れでよかったよ」父さんが言う

「でもさー。電車の中暑くね?」疑問を聞いてみたり

「それは人それぞれだがこれだけ寒いと逆に助かる」

父さんが質問に答える

とまあこんな日常が好きなんだよ

7:30 歯磨き完了! ゆっくりする時間もあったから今日は早め

に出るかな

いつもなら10分後に家を出るんだが今日くらいいいだろう
なんたって今日は快晴だからだ!!

最近曇りやら雨やらでじめじめしてたんだよねえ冬なのに
雪が降ったのは2日だけ曇りやら雨やらは5日

つまり一週間ぶりの晴れなのだ!! しかも快晴!!

これをテンション上がらずしてどうする!

7..31 登校中

じゃあさくつと学校の説明でもしますか

学校の登校時間は8時40分まで 遅刻したことはない

あとは普通だ。

7..40 学校到着―教室1―1 3階端

さてと着いたわけだが・・早すぎた。

やっぱ早いと教室だれもいねえ

と思ったら奥の席に誰かいる?

うーんだれだあれ? 転校生かな?

「あのー、転校生さんですか?」質問してみた

答えは

第1話く終わりののはじまり?く(後書き)

結構短めでいきます！

こういう終わり方って

続き気になっちゃいますよね!!

第2話〈災いの原点〉（前書き）

新キャラ＋すべての始まりです！

ここからようやく戦いが動き出すんですね！！

誰がしゃべっているかはわかると思うので
省略させていただいております。

後々、つきますんでww

第2話〈災いの原点〉

「違います」へ???じゃあなんで学校にいのの?

あーちなみに黒髪ロング身長160くらいかな?あとはまあとりあえずだ・・落ち着こう。

多分あれだ!幽霊だ!!あーそう思うと気が楽になってきたぞとか考えつつも席に着く俺。それに転校生が近づいてきて

「私、あなたと元から同じクラスなんだけど・・。」

えへへ〜しまったww友達とかとはしゃぎまくって

全然クラスの仲間の顔おぼえてないやあ〜

「えっと・・すいませんでした!最近学校来ても寝てたり遊んでたりするから

全然クラスの人(男子以外)おぼえていませんでした!!」

まあ全力で謝るのは当然だよな?てか俺ひどすぎだろ!でも窓際の人の顔とか名前とかって覚えにくいよねえ〜

「私の名前は 神埼 真帆 です」結構怒ってらっしゃる

「俺の名前は藤堂 亜紀です、しってましたよねww」

「下の名前はしりませんでした」

「それが普通ですよww」

とこんなやりとりをしてもだれも来ない

7..45 教室

異変に気づいたのはそこら辺からだろうか、

まず外が暗い、いやちがうな外は青色・・。

へ?青色ってなんだよ!?!あれか色つき下敷きでも貼られてるのか俺は?

でさっきの神埼はどこに?外か!?

?..?? グラウンド

その中心に彼女はいた。

しかし本当に神崎か?青いからかもしれないが・・

いや見間違いないじゃねえなあいつ髪の毛白くなってやがる

神崎はゆっくりこちらを振り返る

落ち着け俺、これは夢かもしれない下手に動けば寝ている俺が変なことになる・・・。

「どうしたんですか？ まさか夢、とか思ってます？ ふふふ」
夢じゃないのか！ おっしゃ！！ 動いても大丈夫だ！！

あれ今声後ろから・・・でも神崎は動いていなかった・・・はず
なのに・・・なんで・・・おれ・・・横に飛んでんだ？

「ぐはあ」グキツッと鈍い音をたてて地面に叩き付けられた
どこも折れてはいなかったがしいて言うなら心が折れたなww

「どうしたんですか？ 弱いですね あははは」

畜生笑いたいのはこっちだよ・・・。

どうする？ 近づく？ 逃げる？ いや逃げるのは駄目だ
いいぜ、倒してやる！！

「やっとその気になりましたか」

神崎が刀を投げてくる。それは俺の前で落ち

「っ！？」俺はこの刀に見覚えがある

よく小さい頃に見たことのあるそれは・・・。

「それあなたの家の刀でしょ？」

そうだよ祖父からいわれていた

『その刀を抜いていいのは覚悟ができた人のみ！』

その時俺は・・・その刀を・・・抜いていた！！

「あはははやっぱあなたのだったんですね！！」

「だったらどうする？ お前を切り刻めばいいのか？」

「怖いですよ、ただ私はその刀の持ち主を探していただけなのです
から」

「ならさっきのはなんだ？」そう攻撃のことだ

「あれはあなたをその気にさせるための唯一の手段ですわ」

「唯一？」

「そう時間がないのですよ、こちらにはほらもうすぐ結界も解ける。」

だからあなたに一つだけ言っておきます」
—その刀はあなた。その刀を手放すことは許されない—

第2話く災いの原点く（後書き）

新キャラ…神崎！ 初めは156cmだったんですがねww
グラウンド時、神崎の目は赤色です。通常は黒
色つきの下敷き（青）を言えば同じ体験できるかも？ ww
ちなみに主人公に見た目の変更はなしwかわいいそうに・・・。

第3話く敵か味方かく（前書き）

第3話です！

また新しい人ですねく

第3話く敵か味方か

気づいたら机で寝ていた・・・。

と・・・とりあえず状況確認だな！えつと・・・12時？

あ・・・あれ！？学校来たの8時だったよな・・・。

あー。あの世界時間たつの早いわけか、なるほどお・・・。

だとしてだ、どうするよ？このまま寝てるか、授業を聞いているか。

だがそんなことしてる暇はなさそうだwwチャイムなりやがったよ

お昼休み

まあアレだ昼食シーンなんていらないよww

みんな食堂いくから、誰も残ってねーだろうな。

あれ？一人残ってる。同じ弁当組かな？

しかもすごく見られてるんだが

あれか？刀の件か？うそーん、ならくればいいのに・・・。

あーはいはいきますよーいくから睨まないでーすごく怖いから！！

「で、なんの用なんだ？」まずこれ聞かないと始まんないからなww

「別に。」！？あれれ？間違えたわww気のせいかなそうですか

「神崎」え？神崎？？

「神崎がどうかしたのか？」しかしなぜいきなり？？

「やはり知っていましたか」あはは・・・。トラップかよ！！

「知ってるが？」

「では早速・・・宝刀いただきますよ？」あーフラグの方ね理解

「あげませーんよ♪」なんか変なテンションでいっちゃったww

「そうでなくては困ります」ですよねー

「ちよいまも」ブォン的な音とともに刀が振られる

教室の中には人が・・・、てか昼休みだからだれもいないんだった

ww

しかも何？刀燃えていますよ？？ってよく見たら・・・剣じゃん！？
だがその炎は机を焦がさなかった。いわば飾りなんだろう

「死にます？」

「いやですww」

「では、しんでくださいっ！」

おかしいなww断ったら殺される、理不尽ですよ!!

「よけないでくださいよ、机切っちゃいますよ？」

「え？ちよいwwやめてw机はまずい」

「ならなんですか？教室でも切ります？」

「いやいやww切るな！まてやめろ！」

その時は教室切るとおもってた・・・

けどちがった

そいつは・・・

チョークを折った。

「じみいいいいいい！！！」

「え？なにがですか？」（△；）エッ・・・？↑こんな顔

そんな顔でいわれてもwwかわいいじゃないか！

まあチャイムが鳴ったからいつものように授業の用意してたんだが・

・。

来た あの世界だ

第3話く敵か味方かく（後書き）

ちなみにこの間の青の世界は結界です
刀を持つてる場合は青くならないです
ちなみに神崎も爆睡しましたW W

第☆話く補足く(前書き)

なんでこんなことに？など
自分でもわからないところの補足説明です

第☆話く補足く

- ・ 神崎の髪と目の色が変わったことについて

自分の宝刀でないものを持つとそれぞれの効果がでます

藤堂の宝刀は 髪を白、目を赤にする代わりに

攻撃の威力の増加、瞬間移動の使用ができる。

ただし自分に来る負荷はなかなかの物である。場合により吐血する

- ・ 爆睡について

神崎が夢ではないといったにも関わらず、なぜ寝てたのか。

これはいまいちよくわかってないのである。

- ・ 結界について

これは現実とは別の世界ということ

結界にはいくつかのパターンがある

1…中にいるものは現実では睡眠中である

(ただし時間経過の結界の場合のみ)

現在の登場はこれだけ

- ・ 神崎の結界について

これは時間経過の結界

時間が経つのが早いため注意が必要

- ・ 睡眠中の授業について

これはどうしようもない

ただ先生は起こそうとするであろうが

結界時は起きない。

ただし現実の体に問題が起きた場合は起きる。

- ・ 宝刀について

ある家族に元から存在する刀を宝刀と定めた

宝剣も登場したが、これも定められたもの

ちなみに模造刀も極稀に含まれる

- ・ 宝刀&宝剣の効果

藤堂の宝刀は現段階で

瞬間移動である

神崎と3話での新キャラは現在不明である

・宝剣の炎について

これは新キャラが持っていた物だが

現実ではただの飾りである。

結界内のみ効果あり

第☆話く補足く（後書き）

とりあえずここまで

何かまだわからないことがあれば

感想の方でお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8974z/>

終わる世界に最後の約束を

2011年12月29日23時48分発行